JAアルプス「ハトムギ」栽培こよみ

JAアルプス農業協同組合・富山農林振興センター　令和2年4月改定

月	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月		
旬	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下

主な作業

①圃場準備
額縁排水溝の設置

圃場を乾かし耕起・砕土の準備

②土壌改良資材散布

③種子消毒

播種作業
(5月下旬～6月20日まで)

④耕起・砕土

⑤播種・施肥

⑥播種時除草剤散布

⑦病害虫防除
1回目　播種後25日頃
2回目　1回目の15日後頃

⑧生育期の除草
1)中耕培土
1回目　播種後25日頃
2回目　1回目の10日後頃
2)除草剤散布
(必要に応じて)

⑨高温乾燥時の畦間かん水
(7月中旬～9月上旬の間、随時)

水不足で萎れる前に畦間かん水

⑩収　穫
播種後120～130日頃(出穂後60日頃)

コンバインで収穫

ハトムギ栽培のポイント

品　　種　：　あきしずく
播種時期　：5月下旬～6月20日まで

<播種前>

【①圃場準備】

○連作を避けて作付け圃場をローテーションさせる。

○耕起前除草
ラウンドアップマックスロード　10a当り500mℓを水100ℓに希釈。
(耕起前又は播種前まで(雑草生育期)2回以内)

○額縁排水溝と基幹排水溝を早めに設置し土壌を乾かす。
・湿害を防ぎ発芽率を向上する。
・砕土率を高め除草剤の効果を高める。

【②土壌改良資材散布】

○耕起前に石灰質資材を散布する。
粒状貝化石　150kg／10a

【③種子消毒】

○「葉枯病」や「黒穂病」の種子伝染を防ぐため必ず実施する。

10a当り種子量3kg　＋　ベンレートT水和剤20　75g
＋
水　15ℓ

72時間(3日間)浸漬する。　浸漬終了後2日以内に播種する。

消毒終了後発芽しないように、よく水を切り風乾する。

浸種が長すぎ、水切りが不十分だと芽が出て播種に支障が出る。→

<播種作業>

【④耕起・砕土】

○土壌が乾いた状態でゆっくり起こし、砕土率を高める。

【⑤播種・施肥】

○播種
・播種時期　5月下旬～6月20日まで
・播種量　3kg／10a(播種開始時に播種量を確認)
・栽植密度(大豆播種機)　条間80～85cm、株間14cm
目皿式：目皿B2、スプロケット目皿側10　車輪側13
・播種深度　3～4cm

○施肥量(側条施肥)
LPはとむぎ専用40～50kg／10a

【⑥除草剤散布】

○播種後ただちに除草剤を散布する。

薬剤名 (使用回数)	適用雑草 (使用時期)	薬量 希釈水量
ｻﾀｰﾝﾊﾞｱﾛ乳剤	水田1年雑草	500ml/10a
＋	＋	＋
ｹﾞｻﾞﾌﾟﾘﾑﾌﾛｱﾌﾞﾙ	畑地1年雑草	200ml/10a
栽培期間中1回のみ	播種直後～出芽前 (雑草発生前)まで	10aあたり100ℓ散布 (2剤混合散布)

<栽培管理>

【⑦病害虫防除】

	1回目(播種後25日頃)			2回目(1回目防除後15日頃)		
	薬剤名	倍率(倍)	必要薬量※1	薬剤名	倍率(倍)	必要薬量※1
薬剤名	パダンSG水溶剤(収穫14日前まで) ＋ ロブラール水和剤(収穫21日前まで)	1,500 1,000	100g 150g	パダンSG水溶剤(収穫14日前まで)	1,500	100g
対象病害虫	アワノメイガ、葉枯病※2			アワノメイガ		
散布量/10a	(2剤混合して)150ℓ			150ℓ		

※1　10a当り150ℓ散布の場合
※2　1回目防除後、葉枯病が発生した場合はロブラール水和剤を追加で随時防除
・薬剤散布の際は、必ず展着剤を加用する。

【⑧生育期の除草】

○播種時に散布した除草剤は2～3週間で効果が切れるため、雑草が大きくなる前に中耕除草する。それでも雑草を抑えきれない場合は除草剤で処理する。

培土が遅れ雑草が繁茂

雑草に負けたハトムギ

1)中耕培土による除草

・雑草を抑えるため、また、生育量を確保するために中耕除草を必ず行う。
・培土は播種後25日頃とその10日後頃に最低2回は実施する。
(乗用管理機での培土はハトムギの草丈が80cmまで可能)

中耕培土の様子

2)除草剤による除草(中耕培土で雑草を抑えきれない場合)

・バサグラン液剤　適用雑草：広葉雑草(イネ科雑草には効きません)
使用時期：雑草の3～6葉期(但し収穫45日前まで)
使用量：10a当り150mlを水100ℓに希釈し散布
2回以内

・プリグロックスL　適用雑草：一年生雑草
使用時期：雑草発生期(出穂前まで)(但し収穫60日前まで)
使用方法：畦間処理(ハトムギにかけてはいけない)
使用量：10a当り600～1000mlを水100ℓに希釈し散布
2回以内

【⑨高温乾燥時の畦間かん水】

○高温乾燥で葉が萎れると生育不良になり、不稔粒が発生するため、土壌の乾燥に応じて畦間かん水する。

【⑩収 穫】

○収穫適期は播種後120～130日(出穂後60日頃)で、上位3節の子実の90％が茶褐色になった頃。

収穫適期：
上位3節の子実の90％が茶褐色になった頃

○大豆コンバインか汎用コンバインで収穫する。
大豆コンバインは馬力が弱いので1条ずつ刈る。